島根県アイスホッケー連盟

これまでのあゆみ

昭和56年3月14日に島根県スケート連盟が設立。当初スピードとフィギュアの二部門でスタートした。また、松江市内でボウリング場2階が改装され、県内初の50m×25m規格のアイスパレスジャスコが完成した。そこでアルバイトをしていた島根大学の学生を中心に社会人経験者も加わり、スケート連盟にアイスホッケー部を創設した。

その後、平成4年11月22日、平田市園町（現出雲市）に24億円を投じた湖遊館スケートリンクが完成し、こけら落としとして、関東学生リーグ法政大学と早稲田大学の公式試合を開催。これを機に日本リーグの招致が実現し、新横浜や東伏見に大挙部員を派遣し、日本トップクラスの大会運営手法を学んだ。結果、日本アイスホッケー連盟から運営が一級と認められ、JOC杯大会の誘致にも繋がった。以降、活動の中心を湖遊館としている。

【第49回冬季国体初出場】

平成5年12月、米子市で第49回冬季大会中国ブロック予選会が開催され、1回戦をPS（ペナルティショット）で岡山県を破り、続く広島県に敗れたが、3位決定戦で山口県に勝利し本大会への出場権を獲得した。

本大会は群馬県伊香保町で開催され、1回戦で山形県に0：6で敗れた。残念ながら以降ブロック予選を突破できないまま今日に至っている。

その後、浜田市に平成8年12月にサン・ビレッジ浜田スケートリンクが開業。一時はチームが誕生し東西の交流試合もできたが、現在は施設上の問題で活動を停止している。

国スポ冬季大会中国ブロック大会

G.G.G開会式のフェイスオフ

【G.G.G（グローバル.ガールズ.ゲーム）の開催】

G.G.Gは、国際アイスホッケー連盟提唱の「全世界で同じ日に女子アイスホッケー大会を行う」もので、韓国平昌（ピョンチャン）オリンピックで日本女子チームが初めて6位に入賞したこの年、世界40カ国で開催されるなか日本を代表し湖遊館で開催した。

【初心者アイスホッケー教室の開催】

湖遊館にホームリンクを移したころから、競技人口の拡大と普及を目指し、毎土曜日に初心者アイスホッケー教室を開催している。毎年約30人の子どもたちの声がリンク内に響く。教室参加者の交流の場として、中・四国各県連に働きかけ、リンクを半分に仕切ったクロスアイス交流試合にも取り組んでいる。

アイスホッケー教室

現在の状況

選手登録者数は、85人（成年男子（大学生含む）38人、女子24人、小・中・高校生23人）となっており、140人を数えた時期から比べると大幅に減少。社会人は人数が揃わず中・四国レベルの地域大会に参加できていない。一方、初心者教室から育った小・中学生は、他県開催の大会に積極的に参加しており、他地区選手と交流が深まり競技熱は高まってきている。特に現在の中学生は、全国大会に連続して出場していることから高いモチベーションを維持している。

これから

施設あっての競技であるため、ホームリンクの湖遊館の存続は必須である。公共施設とはいえ使用料は高い。また外国製品が主流の用具も高額であり、練習時間が営業終了後の夜間のため、送迎にも保護者負担が大きい。また、高校進学後は所属校が分散してしまうことから、強化校の指定や県外流出を食い止める方策が急務である。

単独チームが編成できるよう、競技人口の確保と勝つ喜びを味わうために組織的・理論的強化方策を模索しなければならない。